

平成14年度（第10回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 大久保 利晃

平成14年8月24日・25日に、平成14年度（第10回）専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表致します。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

1. 筆記試験

筆記試験は3つの観点から問題を作成しました。

A問題は、専門医として必要な基本的知識を問う問題です。産業医学、疫学、毒性学の分野から出題し、幅広い知識を評価することを目的としています。

B問題は、専門医としてのより深い知識を問う問題です。そのため、昨年度と同様5問中3問を回答する選択方式としました。このことにより、受験者は得意とする分野の問題を選択して回答ができ、その分野の知識を評価しました。

C問題は、受験者が、産業医として活動する中で経験するであろう課題に対して、一般的な知識とともに、実的な問題解決能力を評価する問題です。5問中2問を回答する選択方式としました。

【A問題】 下記の10問のすべてについて簡潔に回答せよ。（各4点）

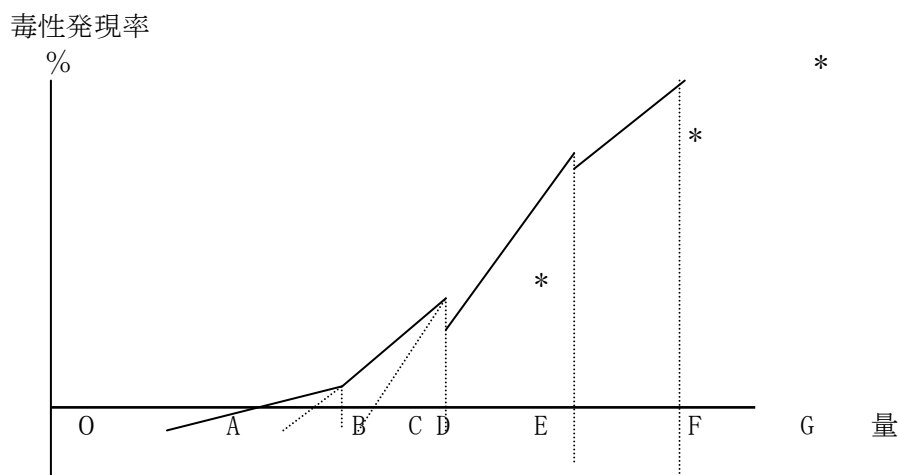
- A1 疫学調査における healthy worker effect について述べよ。
- A2 派遣労働者に対する法定の健康診断の実施義務は、派遣元、派遣先のいずれに課せられるか。
- A3 防じんマスクの保守管理について、留意点を箇条書きにせよ。
- A4 労働安全衛生マネジメントシステムにおいて用いられているリスクとハザードの概念の違いを説明せよ。
- A5 「高リスクアプローチ」と「集団アプローチ」について具体例を挙げて説明せよ。
- A6 下記の図は動物実験で非投与群（0）および、A、C、E、F、Gの量を投与した群での量-反応曲線である。NOAEL（無毒性量）およびLOAEL（最小毒性量）はどれか。
非投与群（0）および、Aの量を投与した群では、毒性は全く発現しなかった。

Bは、CとEそれぞれの量を投与した群での毒性発現率を直線で外挿し、毒性発現率が0となる量。

Cの量を投与した群では、非投与群に比べて毒性発現率に有意な差が認められなかった。

Dは、EとFそれぞれの量を投与した群での毒性発現率を直線で外挿し、毒性発現率が0となる量。

E、F、Gそれぞれの量を投与した群では、非投与群に比べて毒性発現率に有意な差が認められた。



A7 妊産婦を含め女性の就業が禁止されている業務は次の組み合わせのうちどれか。

- a. 20kg以上の重量物を継続して取り扱う業務
- b. ボイラーの取り扱いの業務
- c. 水銀の蒸気が発散する場所での業務
- d. 著しく暑熱な場所における業務
- e. 異常気圧下における業務

- (1) a. b. のみ (2) a. c. のみ (3) a. d. のみ (4) a. e. のみ (5) b. c. のみ
- (6) b. d. のみ (7) b. e. のみ (8) c. d. のみ (9) c. e. のみ (10) d. e. のみ

A8 騒音特性のA特性とはどのような特性をいうのか説明せよ。

A9 労働災害強度率を算出する式を記せ。

A10 2000年の定期健康診断実施結果の全国集計で有所見率の最も高い項目は次のうちどれか。

- (1) 聴力 (4000Hz)
- (2) 胸部X線検査
- (3) 血圧

- (4) 貧血
- (5) 肝機能検査
- (6) 血中脂質検査
- (7) 血糖検査
- (8) 心電図検査

【B問題】 下記の5問の中から3問を選び回答せよ。(各10点)

- B1 疫学研究における因果関係推定の条件について列挙し、それぞれについて説明せよ。
- B2 車両運転業務従事者の腰痛予防対策について述べよ。

- B3 日本産業衛生学会では、トルエンの生物学的モニタリングのために血液中のトルエン濃度、あるいは尿中のトルエン濃度の生物学的許容値を設けている。一方、有機溶剤中毒予防規則では、健康診断項目に尿中の馬尿酸の量の検査が加えられている。それぞれの意義、実施上の注意について述べよ。
- B4 危険有害化学物質を取り扱う事業者は、製造者から提供されたMSDSをどのように活用するか述べよ。
- B5 喫煙率20%の事務職場において喫煙対策として、「全面禁煙」とする案と、「禁煙区域を設定する」という案がでている。産業医として、それぞれの長所と短所を述べよ。

【C問題】 下記の5問の中から2問を選び、回答せよ。(各15点)

- C1 騒音の健康影響に関する衛生教育の際に、「耳栓をしなくて難聴になった者は自業自得だと思うが、どうして労災で補償されるのか」との質問があった。これに対してあなたはどのように答えるのか、解りやすく述べよ。
- C2 時間外労働を行う者を対象とした健康管理体制と健康診断、事後措置、保健指導などの活動に関して産業医として事業者に助言すべき事柄について述べよ。
- C3 労働安全衛生マネジメントシステムにおける健康診断の意義について述べよ。
- C4 監視作業が中心の夜勤作業の職場巡視を行ったところ、作業用椅子に座ったまま居眠りをしている者が見受けられた。事業者は夜勤時の仮眠挿入を提言したところ、「他部門との関係で、その部門のみ仮眠のための休憩時間を挿入することは困難である」との回答を得た。あなたはどのような対応をするか述べよ。
- C5 雇入時の健康診断に来た労働者に使用した採血針を、看護師が誤って自分の指に刺してしまった。その労働者の当日の検査にはウイルス肝炎やHIVなどの検査は予定され

ておらず、健康管理記録には何も記載されていない。この看護師は労働者の血液検体について上記の検査をして欲しいと産業医に相談があった。どのような対応をするか述べよ。

2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的としました。口頭試験【口頭試問】・【グループ討議】・【課題発表】では、6名のグループ3組と7名のグループ1組で3種類の試験が実施されました。

【口頭試問】

1. 事業者に求められている安全（衛生）配慮義務について述べなさい。
2. 本学会の定めた産業保健専門職の倫理指針についてその内容を述べなさい。
3. 事業場におけるメンタルヘルスケア対策の4つのケアについて述べなさい。
4. ノートパソコンを使用した VDT 作業の作業管理上の注意点を、デスクトップパソコンの場合と比較して述べなさい。
5. 産業医活動を行う上で重要な労働基準法の項目について述べなさい。
6. 過重労働による健康障害防止のための総合対策について述べなさい。
- 7a. 労働災害の認定要件を述べなさい。
- 7b. 業務起因性と業務遂行性について説明しなさい。
8. 業務上疾病の範囲を規定している政令について述べなさい。
9. 「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針について」の内容を述べなさい。
10. ラインでの作業で頸や肩、手などに痛みや重みを訴えている作業者の現場を巡視する際の着眼点を列挙しなさい。
11. 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR）」について説明しなさい。
12. 多種類の有機溶剤に曝露する可能性がある場合の毒性や許容濃度、対策について述べなさい。
13. 仕事のストレス判定図について述べなさい。
14. 一般健康診断結果に基づき事業者が講ずべき措置に関して述べなさい。

【グループ討議】

1. 企業では、21世紀の生き残りをかけて、リストラや再編成（企業内・企業間）が急速な勢いで進行している。退職や出向、転籍など多くの人事異動があったため、かえって人手が足りない状況もみられる。事業場では、派遣社員や請負社員、アルバイトで人手不足に対応しようとしている。こうした状況下で産業医が安全衛生上の注意点について勧告することになった。グループで話し合い、まとめなさい。
2. 従業員 350 名の部品製造工場。ヘキサメチレンジイソシアネート（HDI）入りの塗料の使用を検討している。この工場では、10 年ほど前までポリウレタン製品の製造を行っており、トルエンジイソシアネート（TDI）による喘息が 3 例発生したことがある。安全衛生委員会から、HDI 入り塗料の使用にあたっての労働衛生上の注意点について相談を受けた。産業医としてどのような労働衛生管理を提案しますか。

【課題発表】

1. 化学工場で、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を導入することになった。安全衛生委員会の下部組織である化学物質管理部会から、化学物質のリスクアセスメントについて産業医の立場からの原案の提出が求められた。安全衛生委員会において 10 分間で説明しなさい。
2. あなたは化学工場の産業医である。労働基準法の改正をふまえ、本年から女性を深夜勤務を含む作業に配属することになった。人事部から、女性労働者に対する労働衛生教育をしてほしいと依頼された。教育内容をまとめ、人事部の会議において 10 分間で報告しなさい。
3. 産業医をしている企業の従業員が所属する健康保険組合は、ここ数年赤字が続いている。この健康保険組合では、これまで長年契約してきた医療機関での人間ドックは費用対効果が悪いと判断し廃止することになった。健康保険組合理事会から、より効率的な健康施策についての提言を求められた。あなたの考えをまとめ、健康保険組合理事会において 10 分間で発表しなさい。
4. 100 床の入院ベットをもつ私立病院で、喫煙対策をたてることになった。あなたが相談員をしている産業保健推進センターに喫煙対策の担当者が相談に訪れた。この対策の課題について、10 分間で説明しなさい。

5. 従業員 3,000 名の電子部品製造工場である。最近、メンタル関連疾患の急増に直面し、精神科医を嘱託した。この精神科医から、リハビリ出勤等を含む段階的復職制度の早期導入の要請があった。この必要性と課題に関して、工場の産業医として会社側に 10 分で説明しなさい。

6. 早期退職制度導入により従業員数が 300 人となった製造事業場である。景気は落ち込んでいるが、残った従業員の労働時間は長く、かなりの従業員に疲れが認められるようになった。その後、数名が休みがちになり、その一部が休業加療になった。安全衛生委員会では、この事実を重くうけとめ、その対策について乗り出すことになった。産業医としての方針をまとめて、安全衛生委員会において 10 分間で報告しなさい。

7. 従業員数 1,500 名の A 社で、これまで人間ドックで行われた健康診断結果を労働安全衛生法に基づく一般健康診断の代用としてきたが、法定項目以外の健診結果を会社に提出するのはプライバシーの侵害に当たるのではないかという意見が社員の間から出された。安全衛生委員会において、この問題に関する専属産業医としての意見を 10 分間で述べなさい。